

『現地を訪問して想うこと』

2006 年政策科学部卒 松永 英子

今回、東北応援ツアーで初めて岩手県を訪れた。被災地を実際に見て、被災した校友などから当時のこと、現在の心境などについてお話をお聴きする貴重な機会となった。また、四国 4 県分近くもあるという広い岩手県内を移動し、素晴らしい観光地もご案内いただき、魅力を存分に感じる事ができた。

一日目、2014 年 4 月に全線開通した三陸鉄道の釜石駅から盛駅まで『震災学習列車』に乗り、社内で三陸鉄道社員の方から被災状況等の説明を聞きながら、一時間程、三陸海岸を車窓見学した。トンネルの多い三陸鉄道であるが、トンネルを抜ける度に様々な光景を見ることとなった。海の底が見えるほどの津波の恐ろしさというものを想像しながらお話を聞いた。

お話の中で印象に残っていることは、釜石市の小中学生の 99.8%が無事であったという“釜石の奇跡”と呼ばれる避難についてである。この防災教育・防災訓練について、ぜひ多くの人に知ってもらいたいと思う。

また、宿泊した陸前高田市は今、津波で流された街をかさ上げするための工事中である。土砂を山から搬出するベルトコンベアのある光景はテレビで見たことがあったが、実際に様子を見て、市街地の再生に向けて今後もまだまだ作業が続いていくことを実感した。

ツアー中、ガイドの方などから、復興がなかなか進まないことへの不安の声も聞かれた。また、震災孤児や被災者の高齢化など課題が多くあることを教えていただき、改めてそれらの問題を認識した。

ツアー参加後の想いは、3.11 の災害、そして今回のツアーで自分の目で見たもの、感じたことを記憶にしっかり残し、被災した人々のことを思い続けていきたいということである。

最後に、普段、岩手県へ訪問することはなかなか出来ないが、今回のツアーのテーマのひとつでもある『食べる復興支援』を実践していきたい。そして、美味しいものがたくさんあって魅力いっぱいの岩手県に、ぜひ多くの校友の方々にも訪れてほしい。